



「多様な生物の生きる権利が尊重され、それを先進国が奪わない社会」の実現を目指して——

「多様な生物の生きる権利が尊重され、それを先進国が奪わない社会」の実現を目指し、「ケータイと「ゴリラ」との関係にとどまらず、問題の根本解決に向けたしくみづくり・市民啓発活動を継続的に行います。

■2012年度の活動

携帯電話13,000台（総計）を達成

不要な携帯電話のリサイクル・リユースに取り組み、今ある資源の有効活用を行いました。リユースによって得られる収益をもとに、エコケー株式会社とのパートナーシップにより、今年度は約11万円をリユース収益として寄付しました。リサイクルも含めた寄付金額総計は54万円でした。

回収した主なイベント：

- ・ Earth Day Tokyo 2012
2日間で計327台の携帯電話を回収。
- ・ J-WAVE FLEAMARKET in Roppongi Hills 2012
322台の携帯電話を回収



・ イベントでワークショップの実施

Earth Day Tokyo 2012、環境ボランティア見本市2012にて子ども向けのワークショップを行い、エコプロダクツ2012でもクイズを用いた参加型のワークショップを実施しました。



より充実した情報発信を

・ チームのWEBの全面リニューアルを2月に行い、発信力を向上。イベントの報告、回収の告知、日々の打ち合わせの共有など2日に一度程度、メンバーが情報を更新しました。

ケータイゴリラの仕組み

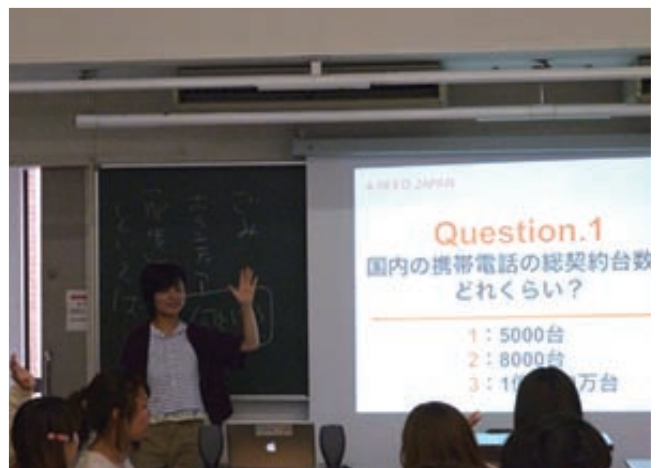
これまでに携帯電話が爆発的に普及していく中で、コンゴ民主共和国の人やゴリラや自然が傷つけられてきましたが、そんな携帯電話を生き残っているゴリラを守るために活用しようという取り組みがこのキャンペーンです。

このキャンペーンでは使用済み携帯電話をリサイクル・リユースし、その収益をゴリラ保護団体に寄付する事で、生き残っているゴリラを守るための活動を行っています。

コンゴ民主共和国の人々とゴリラを、使わなくなった携帯電話を通じてご支援ください。

学生を中心に問題をわかりやすく伝えるワークショップを実施

- ・ 出前授業の実施
3月に神奈川総合高校、10月に青山短期女子大学にてそれぞれ出前授業を行い問題の啓発に努めました。



●法人・団体からのご寄付

日程	イベント名/回収場所	携帯電話	小型家電
1月19日～21日	六本木ヒルズ自治会イベント	341台	
3月19日	WESHOP にのみや	11台	
3月21日	WESHOP ほどがや天王町	14台	
4月21日～22日	Earth Day Tokyo 2012	306台	21台
4月7日～30日	キューン20デイズ&イヤーズ	15台	
5月5日～6日	J-WAVE FLEA MARKET in Roppongi Hills 2012	302台	20台
6月2日～3日	エコ・ライフフェア2012	25台	
7月9日	ごみゼロナビゲーション活動に参加したボランティアより	6台	
7月14日	環境ボランティア見本市2012	8台	
9月8日	A SEED JAPAN ボランティアより	5台	
9月21日	AVEDA南青山店ジャングルボックスより	105台	
10月6日～7日	グローバルフェスタJAPAN・2012	24台	24台
10月23日	堺町画廊ジャングルボックスより	37台	2台
10月28日	A SEED JAPAN事務所より	2台	
11月11日	A SEED JAPANボランティアより	4台	
11月12日	Ge'GORILLA LIVEにて	11台	
2月13日～15日	エコプロダクツ	296台	26台

●支援先について

ポレポレ基金 (Polepole Foundation)

コンゴ民主共和国東部のカフジ・ビエガ国立公園でゴリラのエコ・ツアーのガイドをしているジョン・カヘクワさんと地元若者が中心となって1992年に創設されたNGO。ゴリラをはじめとした野生生物や自然の保護活動や、幼稚園から中学校まで環境教育ができる学校を建てるなど教育を通じた活動を行っています。日本支部ではパンフレットや映像などを通してこの活動を広め、現地の民芸品の販売などを行うことでこの活動をサポートしています。

国際ゴリラ保全計画

(International Gorilla Conservation Program)

国際ゴリラ保全計画はゴリラの保護に特化して活動している団体です。アフリカ山間部の森林と、そこに棲む多くの種を保護するために持続可能な管理を保証し、生存を脅かす問題を解決することを目的とし、絶滅に瀕したマウンテンゴリラおよびその生息地の保護を実施し、地域の持続可能な開発に寄与するような越境保護区群の共同管理、協力的な保護政策の採択への働きかけを行っています。



2012 年度の総括

2012年度は、使われなくなった携帯電話をリサイクル・リユースし、資源を有効活用するという目標と、コンゴ民主共和国の現地市民やゴリラを支援するために寄付金額を増大させるという目標を立てて活動を行いました。これらの目標を達成するために、年間を通じて7回の環境イベントに出展した他、高校や大学の授業で問題の普及啓発にも努めました。54万円をポレポレ基金に寄付し、2,000台を超える携帯電話をご寄付頂いた2012年度ですが、その一方で回収以外の活動が手薄になった事も課題でした。2013年度は携帯電話とゴリラにまつわる問題の根幹、「環境と社会に配慮した(=エシカルな)調達」によって作られた携帯電話を企業に求めていく事を計画に盛り込みました。WEBやtwitterを戦略的に用いつつ、問題の解決に向けてより核心に迫る活動を行っていきます。

2013年度に向けて――

地球上の多様な生物の生きる権利が等しく尊重される社会の実現を目指し、「ケータイ」と「ゴリラ」との関係にとどまらず、問題の根本解決に向けたたくみづくり・市民啓発活動を継続的にを行います。

短期目標

- ・ 不要な携帯電話のリサイクル・リユースに取り組み、今ある資源の有効活用を行います。
- ・ 社会や環境に配慮した携帯電話を製造するよう、家電製品製造企業、携帯電話通信事業者 (docomo, au, softbank等) に働きかけます。
- ・ ワークショップなど参加型の市民啓発活動を通じて持続可能な資源利用を求める市民の数を増やします。
- ・ ゴリラの保護に関して、他団体と連携してより現地に貢献できるような体制を構築します。
- ・ 現地のNGOと連携して支援活動を行うために、彼らとの話し合いの場を持ちます。

実行手段

- ・ Earth Day Tokyo 2013を始めとして年に数回ブース出展を行います。
- ・ 大学や高校の授業に講師を派遣し、若者世代へ問題を広く伝えます。
- ・ ブース出展時にクイズラリーやWEBアプリなどの参加型コンテンツを取り入れます。
- ・ twitterやブログによる情報発信を継続的にを行います。またSNSとWEBサイトを連携し拡散能力を向上させます。
- ・ ポレポレ基金日本支部と共にコンゴ民主共和国に関する勉強会、イベントを開催します。

未来生活 NOW!



- ・経済の持続性を目的とする「資本系グリーン・エコノミー」と、生命の持続可能性を目的とする「生命系グリーン・エコノミー」に対話と調和を促すことで、「経済成長中心」から「生命のための経済」へ、モノ（資源）・カネ（金融）・情報（メディア）のしくみを変えます。
- ・「グリード・エコノミー（不正な経済）」に節度を求め、「生命系の経済（地産地消を基本とする有機農業が目指す、食・エネルギー・医療の地域での自給の在り方）」の主流化を実現します。環境やコミュニティを破壊する資源採掘をストップさせ、持続可能な形で資源利用が行われる社会を目指します。

■2012年度の活動

国際社会に対して提言を一リオ+20に向けて

リオ+20までにポジションペーパー「グリーン・エコノミーに対話と調和を」を作成し、ブラジルでのリオ+20にメンバー3人を派遣。NGO連絡会を通して政府担当者との会合に参加し、提言を行いました。リオ+20の成果文書では、各国や企業による持続可能性の自主的な推進・報告を進める事の重要性を認め、ベストプラクティスモデルを開発し、持続可能性報告を組み込む行動を推奨することが盛り込まれました。またリオ+20開催期間中に、世界の37金融機関が「自然資本宣言」への署名を宣言しました。これらグリーン経済の動きを引き続き市民が監視・提言していく事の重要性を確認し、今後のASEED JAPANの国際会議キャンペーンの骨子となるビジョンを深める事が出来ました。

モノ・カネ・情報の選び方を、幅広い層へ提案

参加型コンテンツ「ミライフチェック」を開発し、Earth Day Tokyo2012等のイベントブースで300名を超える来場者に啓発を行いました。2012年12月に冊子「エコライフからミライフへ」を3,000部発行し、青年・NPO・金融機関等に対し配布しました。

6回のシンポジウム・イベントで金融機関・有機流通団体と連携

2011年3月から数え2013年3月までに6回のグリーン・エコノミー・シンポジウムを開催し、500名を超える参加を得る中で、facebookページで79人、より直接的なつながりとして30団体を超えるネットワークを構築できました。対話の相手として有機流通団体や地域金融機関との連携も前進しました。イベントではEarth Day Tokyo 2012、環境ボランティア見本市2012、エコライフフェア2012、グローバルフェスタJAPAN 2012、土と平和の祭典2012、エコプロダクツ2012の6つのイベントでブース出展しました。3度のフォーラム/シンポジウム、2度の主催ツアー合宿、その他合同あるいは他団体と協力してのトレーニング/セミナーを7度実施し、合計250名以上の参加を得ました（うちリオ+20報告会は3度実施）。



2012 年度の総括

2012年度から「未来生活now」プロジェクトとして新たに体制を整え、遠くブラジルでのリオ+20に対して、東日本大震災と放射能汚染による国内情勢を踏まえつつ、公正で持続可能な経済システムの提言および啓発を実施した点で、A SEED JAPANらしい活動を展開できた1年でした。10年前の国連持続可能な開発会議から「買う・働く・貯金するエコライフ」というテーマが生まれ、今回のリオ+20では「モノ・カネ・情報のミライフ」に進化し、「東京における生命を大事にする地域自給社会づくり」の主流化に帰結したことは、未来生活nowプロジェクトの今後の事業展開にとって重要な変化といえるでしょう。さらに、facebookやtwitterなど、ソーシャルメディアの活用、携帯アプリ開発など、青年らしいツールに着目した活動も活発に行いました。

加えて、史上最悪の原発事故を起こしてしまった日本の未来世代として、環境問題を構造的視点でとらえ、オルタナティブを提言・実践するプロジェクトとして、現場の声を聴き、NGOのネットワークを駆使して原発問題/放射能汚染にも向き合い続けた1年でもありました。

2013年度に向けて――

長期目標

・経済の持続可能性を目的とする「グリーン・エコノミー」と、生命の持続可能性を目的とする「ライフ・エコノミー」に対話と調和を促すことで、「経済成長中心」から「生命のための経済」へ、モノ（資源）・カネ（金融）・情報（メディア）のしくみを変えます。そして、化石燃料を盲目的に使用し成長を過剰に追及するような経済である「ブラウン・エコノミー」に節度を求め、地産地消を基本とする有機農業が目指す、食・エネルギー・医療の地域での自給の在り方としての「ライフ・エコノミー」の主流化（日本における有機農業の割合を現状の0.3%未満から3%以上へ10倍にする事）を実現します。

短期目標

・「グリーン・エコノミー」のプレイヤーである企業/団体30以上と、「ライフ・エコノミー」のプレイヤーである農家/団体30以上のネットワークを形成し、対話と連携を通して、「東京における生命を大事にする地域自給社会」を推進できる拠点を作ります。首都圏（特に新宿エリア）のCSR推進企業（飲食・流通業、金融業、情報通信業（メディア）、資源・エネルギー関連業等）と、首都圏の有機生産者の協働による、新宿エリアでの勉強会/交流マルシェ企画を継続的に実施します。

実行手段

- 1) 連携・協働の場の設定（勉強会・シンポジウム・物販・その他出展）
 - ・「東京における生命を大事にする地域自給社会」を広める勉強会・物販企画を6回以上、実施します。
- 2) 人を巻き込む活動（ツール開発・啓発・メンバー募集）
 - ・WEB/アプリ、冊子/パネル等を制作し、メンバー募集と啓発のためのブース出展を、6回実施します。
- 3) 「ライフ・エコノミー主流化のための提言活動」
 - ・東京都/新宿区に対し、有機農業推進に関する政策提言を行います。
 - ・12月に開催されるエコプロダクツ2013において、チーム連携に基づくブース展示、フォーラム企画を統合的に展開し、参加企業およびメディアに対し、提言を発信します。

